

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

平成30年 6月 22日

(提出先)

川越市長 川 合 善 明様

提出者

住 所 埼玉県新座市大和田5-17-20

氏 名 株式会社システムアドバンス

代表取締役 上野太一

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 048-482-5088

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社システムアドバンス 開発センター
事業場の所在地	埼玉県川越市芳野台2-8-28
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	15、印刷・同関連業
②事業の規模	製造品出荷額4億円
③従業員数	17名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	強酸：製造現場より排出→特別管理産業廃棄物保管施設→処理業者へ処理委託全回収（中和・無害化） 強アルカリ：製造現場より排出→特別管理産業廃棄物保管施設→処理業者へ処理委託全回収（中和・無害化）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

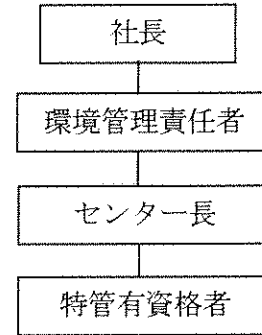
(管理体制図)

社長：統括責任者

環境管理責任者：適正管理、資源化、
リサイクル推進

センター長：廃棄物の統括管理、教育、指導

特管有資格者：特別管理産業廃棄物の保管、
処理の管理



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成 年度）実績】		別紙1の通り
	特別管理産業廃棄物の種類		
	排出量		
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		別紙1の通り
	特別管理産業廃棄物の種類		
	排出量		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 強廃酸、強廃アルカリに廃液タンク分類
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状維持

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	-	-
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	- t	- t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	-	-
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	- t	- t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	-	-
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（平成 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	別紙2の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		別紙2の通り	
	特別管理産業廃棄物の種類			
	全処理委託量		t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t	t
	再生利用業者への 処理委託量		t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t	t
(今後実施する予定の取組)				
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸
	排出量	28.8t	40.0t
	<p>(これまでに実施した取組) 薬液の投入量制御による減量化。 ISO上での排出量管理。 当該薬液使用量：強アルカリ 2.5t、強酸 5.7t であり排出量の残りは希釈、洗浄に使用した水。</p>		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸
	排出量	28.8t	40.0t
	<p>(今後実施する予定の取組) 現状維持</p>		
		汚泥（薬品等）	強酸（薬品等）
		0t	0t

別紙 2

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（平成29年度）実績】				
特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸		
全処理委託量	28.8t	40.0t		
優良認定処理業者への 処理委託量	28.8t	40.0t		
再生利用業者への 処理委託量	-	-		-
認定熱回収業者への 処理委託量	-	-		-
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	-	-		-

①現状

(これまでに実施した取組)
優良認定処理業者へ委託し全回収

【目標】				
特別管理産業廃棄物の種類	強アルカリ	強酸		
全処理委託量	28.8t	40.0t		
優良認定処理業者への 処理委託量	28.8t	40.0t		
再生利用業者への 処理委託量	-	-		-
認定熱回収業者への処 理委託量	-	-		-
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	-	-		-
(今後実施する予定の取組) 現状維持				

②計画